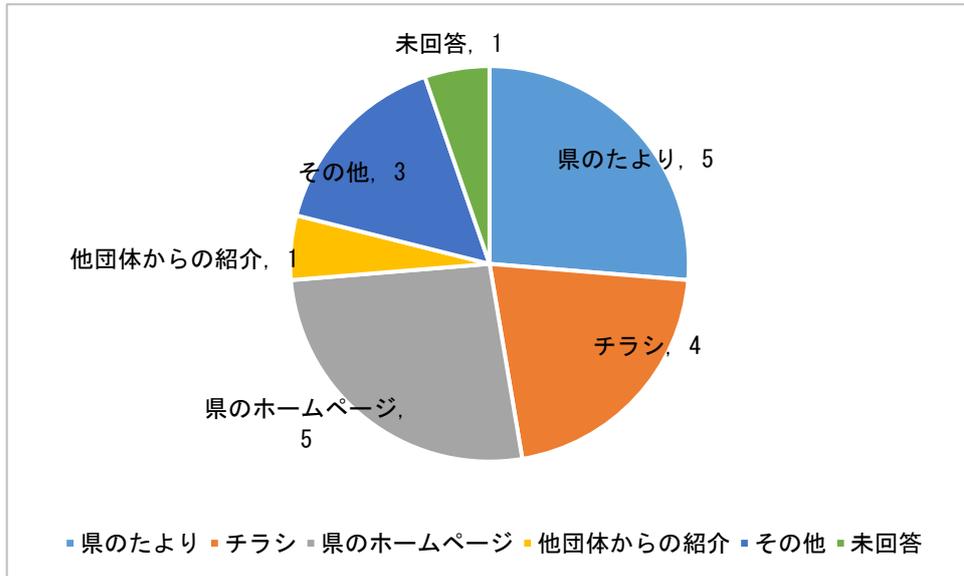


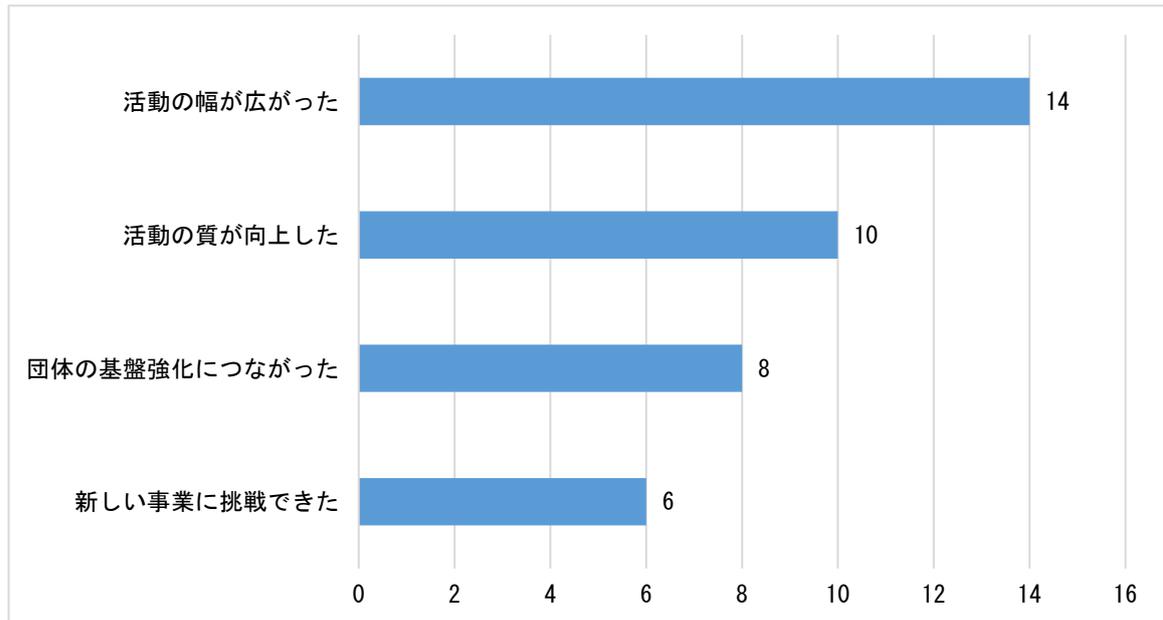
水源環境保全・再生市民事業支援補助金に関するアンケート結果

問 1 団体名（省略）※18 団体より回答有

問 2 補助金を知ったきっかけ

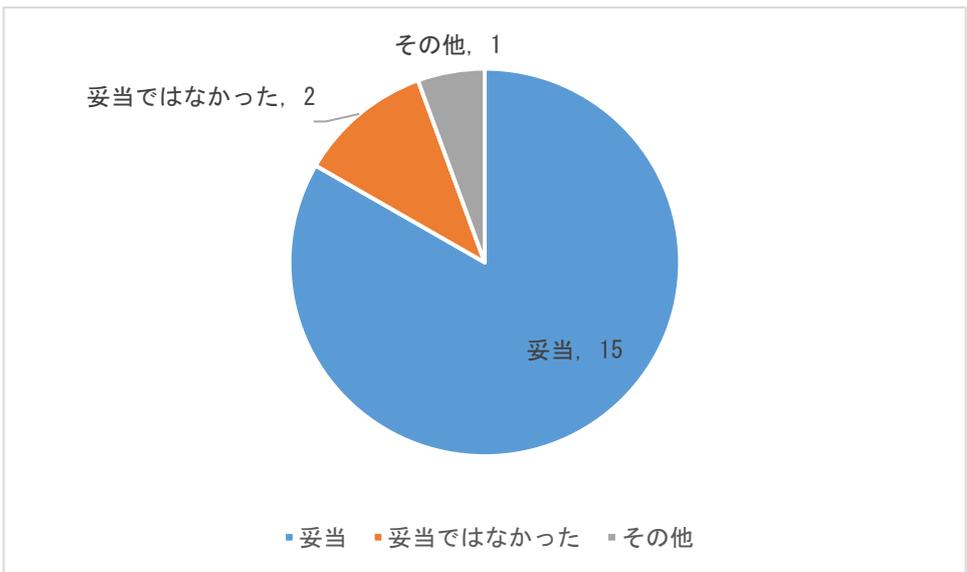


問 3 補助金活用後の変化・効果（複数回答有）

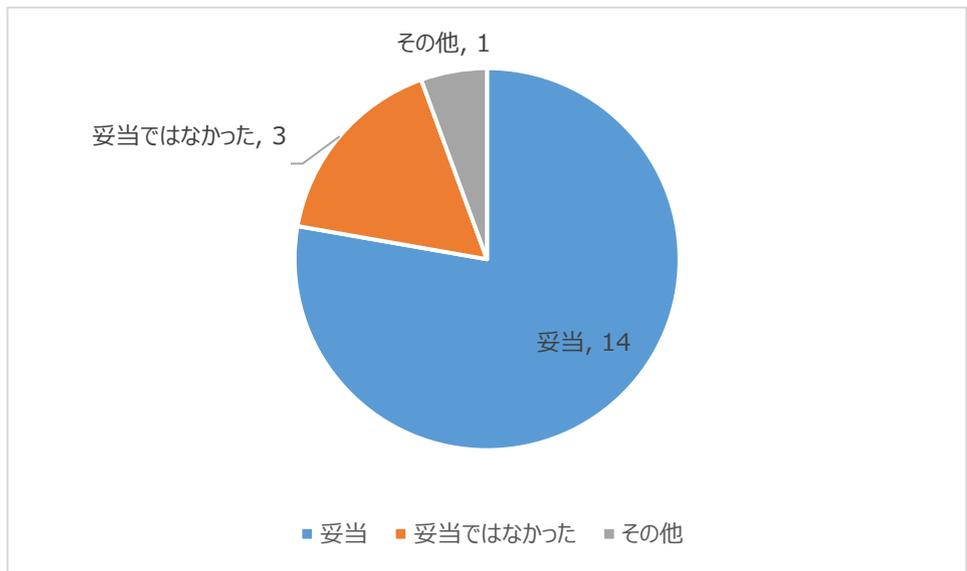


問4 補助率や補助上限額は、事業規模や必要経費に対して妥当だったか

【補助率】



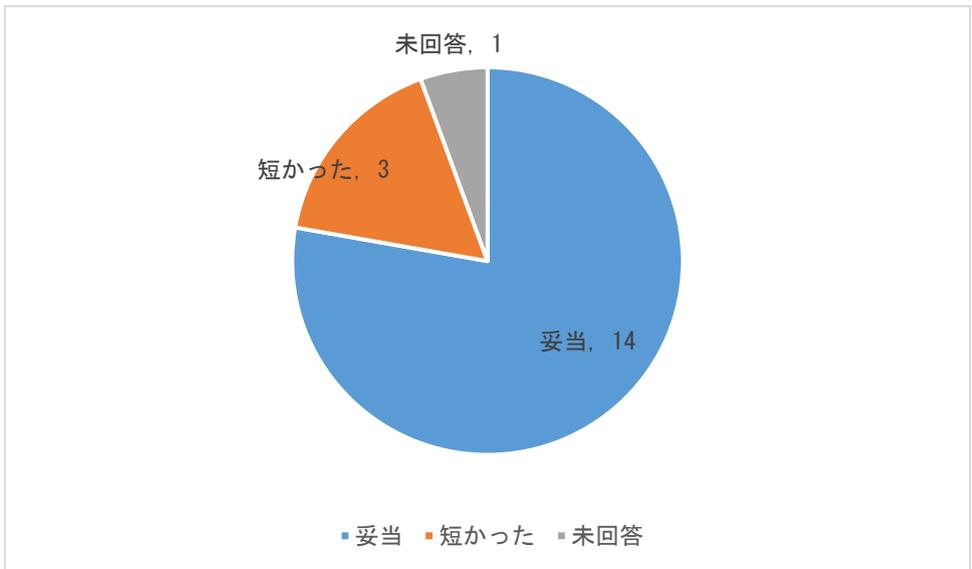
【補助上限額】



(団体からの意見)

- ・行政とパートナーシップ協定を結んで活動しているものの行政の助成金は2万円/年です。チェーンソー、刈払い機など活動資材の購入には、他の助成金獲得が必須であるため非常に助かりました。
- ・会を立ち上げる費用については非常に助かった。
- ・当会にとっては、機材の拡充に随分助かったとの認識です。
- ・資機材購入費に対して見積額の補助があれば機械化できる。
- ・山間地・過疎地での住民による活動に対して、低すぎる。
- ・補助率について、普及啓発事業の1/2は概ね理解出来ますが、4/5だとより応募の魅力が増すと思います。
- ・森林の保全・再生事業の上限額について、整備面積に比例しておりますが、物品費・経費などは必ずしも比例しないと思われしますので、廃止して申請内容のチェックで決めていただければと思います。

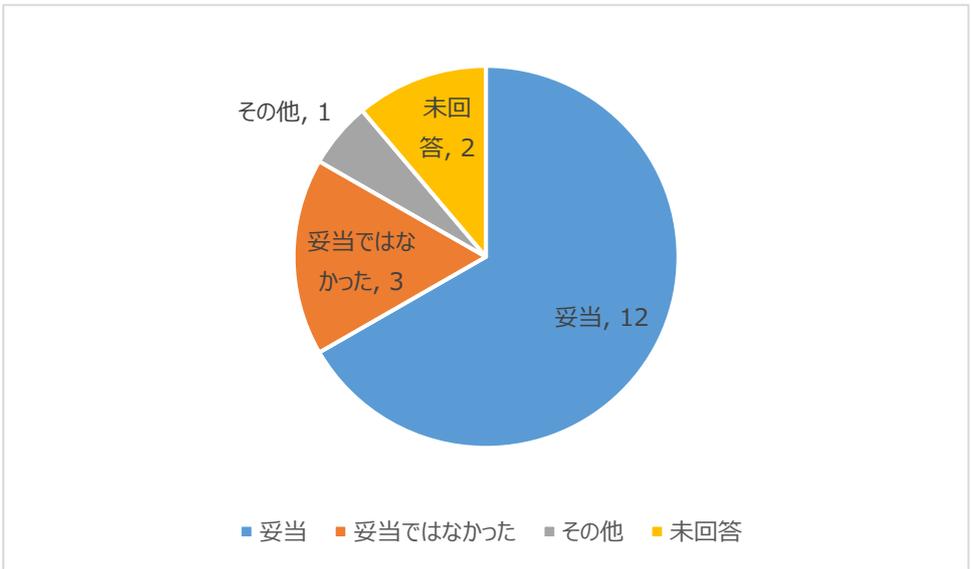
問5 補助期間は妥当だったか



(団体からの意見)

- ・啓発部門に関しては、教育効果の観点から、活動の継続性が重要と考えられる。
- ・スキルアップ部門の利用があまり判らなかった。
- ・1団体で申請できる期間が5年で終了してしまう。繰り返し申請できる制度にしてほしい。
- ・当会は7年前に助成を頂いてから12年になりますが、会員数も増えていて、機材などの拡充に苦勞しております。
- ・団体としては出来るだけ長期間の補助を希望しますか、5年は妥当と思われます。
- ・スキルアップ部門は8年ぐらいが妥当で5年では短い。

問6 補助対象経費は活動目的に対して妥当だったか



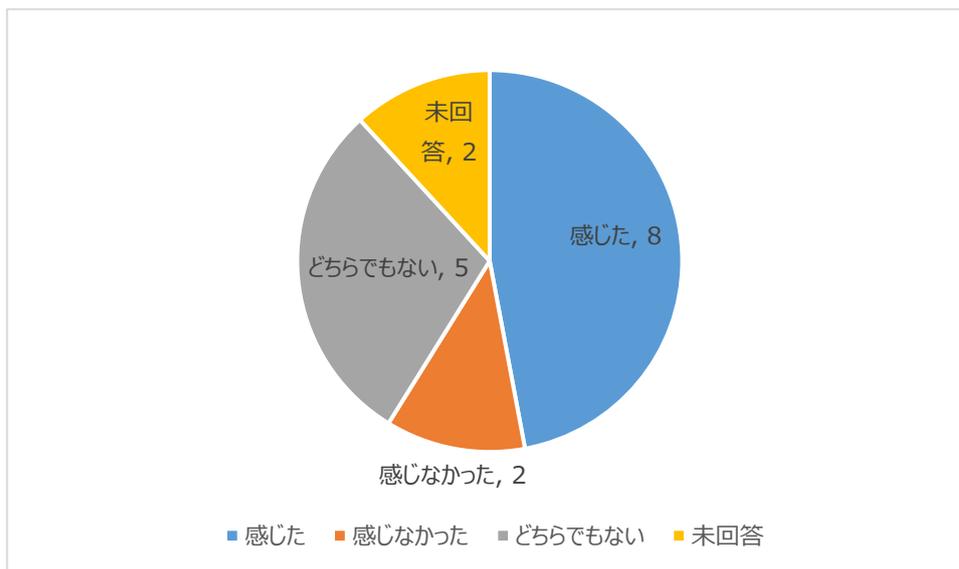
(団体からの意見)

- ・スタッフの人件費が少しでも経費として見てもらえると助かる。ボランティアだけでは継続が難しい。
- ・害獣、害虫対策費用が補助対象外というのは納得しがたい。鹿、猪よるマダニやヤマビル被害の拡大は年々広がっていて三ノ宮地区も例外ではない。子供たちやボランティア参加者にとって里山が安全で安心な場所であり続けるように環境を整えるのが事業運営者の責任であるが、駆除

に要する費用が増加していてイベントの開催のネックになっているのが現状である。ぜひ補助対象としていただきたい。

- ・ 県内各地から来るので交通費が支給できれば非常に助かる。
- ・ 補助金は機材の拡充に使わせていただきました。会員の増加に合わせて機材の拡充は厳しかったですが、助成があり助かりました。
- ・ 現在の経費対象項目は解りませんが当クラブが受給していた時について、飲食代が対象外とされていたが、熱中症対策の飲料や「一人当たりの昼食代の一部補助」があると大変助かるとおもいます。
- ・ 限定的で自由度が低い。
- ・ 採択に当たっては、市民公益活動を応援するスタンスから拡大解釈をお願いしたいと思います。
- ・ 経費については、判断に迷うものはその都度相談が可能であった。

問7 補助金の申請に関して手間・負担感を感じたか



(団体からの意見)

- ・ 手間ではあるが、補助金の性格上やむを得ない手間と認識しています。プレゼン時の質疑応答も適正なものだったと感じています。
- ・ これからのボランティア活動において若い人たちに活動費用、交通費を保証することは必須条件だと思います。必要経費を支給できれば必ず人は集まると思います。
- ・ 申請書類が多く、大変。
- ・ 受付番号などの記入は簡略化してほしい。
- ・ 事務局や委員からの、たくさんの質問に回答するのが大変だった。
- ・ 当時は伐倒本数（竹材や樹木等）や使ったガソリン量等現場では、やっつけられない報告を求められ、非現実的な事と感じました。伐倒している担当は夢中で作業しているので、結果を監視する担当を付けていました。非能率的で苦戦したが後半は報告内容が緩和されて良かったです。
- ・ 当クラブは河川敷の整備が主のため石が多くある場所の草刈りは他の場所と違って刈払機の替刃の消耗が激しく多くの数量の予算提出となるが「数量根拠」と「燃料使用料根拠」を求められたが、使用実績からの算出のため根拠の算出には大変苦労しました。
- ・ 中間実施報告書と中間収支計算書の記載を簡略化して、作成時間が大きい。

- ・申請・報告すべての手続きが複雑・大量で、補助額に対して重すぎた。
- ・年間通しての活動であり、関わる人数も多いため、経費の精算・申告に手間がかかった。
- ・プレゼンや中間報告など助成金額からみても、ここまでしないといけないのでしょうか。劣後しないかが心配です。
- ・申請書類が多岐にわたり、申請書類作成にかなりの時間が掛かりました。

問8 補助金全般についての改善点

(1) 補助金の交付時期について

- ・原資がない組織においては、投資になるので、条件付きで融資する仕組みがあれば、志のある組織では喜ばれるかもしれません。
- ・補助金支給が年度終了後のため、活動開始当初は資金調達に大変苦労しました、中間仮決算があるととても助かると思われます。
- ・実質的には次年度に資金が交付されるため、先行経費の立替が必要。(資金不足で助成金を申請する訳で、別途、引き当て融資先を探す場合すらあると聞き及んでいます)

(2) 補助事業について

- ・大地の再生、通気水脈改善とよばれる環境改善にたいしても補助できると利用する団体が増えるしありがたいと思う。
- ・静岡県側の小山町は神奈川県酒匂川水系の水源地であるが、調査地として認めてもらえなかった。神奈川県の水源地になっているエリアは認めて欲しい。県の境界を少しでも超えると補助対象外という扱いは残念に思う。
- ・二ホンジカによる植生劣化は水源環境に最も重大な影響を及ぼしています。県の事業や猟友会の捕獲だけでは森林の荒廃を止める事ができません。捕獲活動を助成対象にいただき、各地の市民団体の活動を活発にし、山を守る人材を育成すべきと思います

(3) 補助金制度について

- ・チェンソー・刈払い機などの資材は定期的な更新が必要なため、過去に補助金を受けた団体に再度、補助金支給の機会を与えてくださることをご検討ください。例えば、前回の補助から10年経過したら、申請の機会があるなど。
- ・年間のNPO活動計画の概要は、前年度におおむね決まっております、県民フォーラムの日程によっては、変更の必要性が生じてしまうが、連携先の決まっている活動については、変更が困難である。
- ・里山での作業は樹木の生長に合わせて保育サイクルを繰り返し行うことが必要である。補助事業の期間が終了するとステップアップによって課題を増やさなくてはならず、取り組む内容も高度化するのはやむをえないが、自分たちのような小規模団体では取り組む内容をすぐに増やせるだけのマンパワーがないのが現状である。小規模団体に合うような形で同じ補助事業をもっと長くできるような仕組みを作ってほしい。
- ・左記のように「特殊な場所」であるため「現地確認」をお願いしたが、訪問は補助金最終年の5年目に初めてされた、新しく補助金が決定した団体には「早期訪問」が必要と思います。

(4) その他

- ・補助金の使用に当たって制限が多いので使いづらい。
- ・最近はおわかっておりませんが、報告内容を評価される方々は、実務経験がおありの方がなさるのであれば納得ですが、頭の中での数値化報告を求められると・・・です。

- ・行政による手続きのサポートがあると良い（申請内容のヒアリング、書類作成サポート等）報告書の提出締め切りが短期間過ぎて非常に負担なので余裕を持たせてもらいたい。
- ・歴代ご担当者の方々には大変お世話になり、ありがとうございました。

問9 これまでに利用して良かった補助金制度

- ・セブンイレブン財団「環境市民活動助成」
- ・日本学術振興会「科学研究費助成事業」
- ・かながわトラストみどり財団「森林及び里山における活動支援事業」
- ・花王「みんなの森づくり活動助成」
- ・林野庁「里山林活性化による多面的機能発揮対策交付金」
- ・愛川町「あいかわ町民活動応援事業」
- ・相模原市「相模原市市民・行政協働運営型市民ファンドゆめの芽」
- ・相模原市「里地里山保全等促進事業補助金」
- ・サントリーホールディングス株式会社「サントリー世界愛鳥基金」
- ・国土緑化推進機構「緑の募金公募事業」

問10 補助金制度以外でのご意見

- ・チェンソー・刈払い機などの資材は定期的な更新が必要なため、過去に補助金を受けた団体に再度、補助金支給の機会を与您とてくださることをご検討ください。例えば、前回の補助から10年経過したら、申請の機会があるなど。
- ・県内の小学校5年生は、林業の学習を行っている。そこへ出張で出前講師として林業の話をしに行ったり、コロナ禍ではオンラインで森と教室をつないで、森の話をしてきた。学校では予算がとりづららしく無償で行ってきたが、ここに水源環境税、この補助金をあてて、神奈川県の子どもたちが実際に森に見学や体験したり、講師を呼べる機会をつくったり、県産材を使って授業で工作したり木育できる環境をつくる必要があると思う。
- ・補助金で購入した物品を次の世代へ引き継ぐ時期に来ているので若い世代への勧誘が必要になってきた。
- ・クラブ発足しなかなか基盤整備が出来なかったが、補助金を頂き徐々に整備が進みしっかりしたクラブ基盤が出来、現在まで活動が継続しています、とても感謝しています。